

令和4年度 トライアングルプロジェクト連絡会 第一回 会議録

地域支援部

1 実施日・場所 令和4年 5月18日(水) 10:00~11:45 多目的ホール

2 参加者 放課後デイサービス事業所・担当者
本校副校長 地域支援部主幹・コーディネーター 生活指導部主幹
地域支援部主任 支援部担当

3 内容

(1) 副校長あいさつ

日頃より本校の教育活動にご協力くださり感謝している。下校後の放課後活動での時間は学校生活以上に子供たちが楽しみにしている時間。本日は充実した会にさせていただきたい。

(2) 生活指導部より

・送迎のルール

校内への車両の乗り入れを禁止 →ご協力ありがとうございます
コインパーキングを除き、近隣施設への駐車はご遠慮ください。

・引き渡し訓練について

7月20日(水)下校便のスクールバス運行はない。引き取りは保護者をお願いする。

学校から放課後デイサービスへの直接の引き渡しは行わない。ご協力おねがいしたい。

(3) 学区域について

- ・都教育委員会が公開しているHP情報をもとに説明。
- ・都立立川学園について、今年度は小1のみの開校。来年度からは本校の小2~中2までが学籍異動対象となり小1から中3まで全面開校となる。
- ・都立立川学園は小・中学部のみで設置で、高等部は都立武蔵台学園が学区となる。

(4) 情報交換

本校生徒の高等部卒業後の進路に関することや、コミュニケーション指導等について、意見交換が交わされました。(2ページ目以降参照)

- 事前アンケートより。

- 児童生徒の様子を見学する機会があるとよい。→第2回、11月9日に行う。

- 残念ながら参加できないので本日の情報を共有したい。→本日の記録は後日HPに up する。

- 高等部の就労先について教えて欲しい。

- 担当主幹より

- 福祉就労（生活介護、継続B型・A型、就労移行）、企業がある。

- A型は最低賃金が適用される。去年は本校にA型を利用する卒業生はいなかった。

- 企業は障がい者雇用枠があり、去年は9名が就職している。

- 特別支援学校での進路指導ではミスマッチを防ぐよう配慮している。

- なぜなら、ミスを手放しにして頑張ろうとする生徒が障害特性上少ない。

- 1年生で色々な仕事を学び、2年生から本格的な実習がある。長くて2週間。

- 3年生の実習についてはI期、II期と表現する。II期（2学期）で確実にフィットさせていく。

- まれに3学期に実習を行うことがある。

- 企業では、高等学校と同様、特別支援学校でも就業協定上、内定をいただけるのは9/16以降。

- 3年生ではハローワークに求職登録していくケースもある。

- 昨年度の情報交換会より（担当主幹）

- 予定の変更など学校から直接連絡をもらえるとよい、という要望があった件について。

- 本校ではフェアキャスト（月額900円）を有料で利用している。無料のものだと広告が入ったりするので本校は有料のものを利用している。

- 事業所さんの加入枠組みについて検討している。

- 排せつ指導についての質問について

- 各事業所からご参加の方の自己紹介・・・所属、名前、一言

- 情報の共有、連携、交換を期待している。

- 進路や日々の学校生活の様子などの勉強のために参加した。

- 複数のデイを利用して利用者の情報共有をしたい。 など

- 質疑応答・・・挙手で行う。質問に対し担当主幹が答える。

- 今年度も昨年度同様、HPに月予定を載せてほしい。月予定を見て、下校時間を確認できるので載せて頂けるとありがたい。

- 担当に伝える。改善する。

- 高等部の利用者が増えている。デイとして就労につなげる取り組みをどのようにしていけばよいか。デイで取り組めることを教えて欲しい。

- 高等部・利用者。利用時間1時間で特定の女性スタッフと話すことを目当てに来所している。他の活動をすすめても学校じゃないからと断られてしまう。

- 企業がどれくらいの学力を求めているのか。

- キーパーソン、核となる人の存在は生徒にとってありがたい。担任以外、学校外に存在があることはとてもよいこと。

- デイサービスは教育機関ではないので、学校からこんなことをして欲しいとはお伝えしづらい面もある。

- コロナ禍でのマスクの着用の義務化、なかなか難しい子もいる。どのような素材がよいかなど試行錯誤。1Fにパン屋の就労事業所が併設している。手袋やマスクをしていないと働けないよ、

と着用できるとこんなことができる、と意味を添えてマスクを着用することを教えるようにしている。取り組みの参考までに。

→本校でもマスク着用について、あきらめずに取り組むことで着用率が上がった。不織布にこだわらずウレタン素材やキャラクターのあるものなど生徒が興味をもって着用できるものを選ぶなど、工夫を続けている。また、高等部の食品加工班の活動を見ることで、ここで働きたいからマスクを付ける、と着用できたケースもある。

○言葉で意思疎通が難しいお子さんへの手だてで、学校と共通に使えるものがあれば教えて欲しい。

→教員から子供に伝える時に、絵カードを使用することは多い。

話せないけど内言語が確立している児童・生徒にはPECSを使用することがある。

・・・・・実物紹介

ドロップス というイラストがある。その開発者がドロップトークというアプリを開発している。生徒のiPadに入っている。参考までに。

○中学部・男子 パニックから破壊行動に移ってしまった。体に触られることが嫌な子だったので触らずに対応。結果、ガラスが割れることとなった。

激しいパニックの際、別部屋に移す他の対応があれば教えて欲しい。

→苦手なことをどれだけ把握しておくか、パニックを起こさせない対応が一番だが・・・

本人が怪我をする恐れがあるときや他の子が怪我をする恐れのある時は、安全を優先する。

学校ではパニックの予防の方にウェイトをおいて指導している。

・悪いことをしたときにクールダウンを優先するか、ダメということを教えることを優先するか。

→以前医師の講演で、「理性ではなく本能的な不安を感じている状態では指導は入りにくい。クールダウンして客観視できるようになってから話す方がよい。人から言われるより、自分で振り返って気付く方が納得するケースがある。」という話があった。

○高等部・男子 異性への興味が出てきている。女性への距離が近い。当然の成長ではあるが、社会に出ていく年齢なので、異性への距離感についてどのような指導をしているか。アドバイスがあれば。

○高等部生を迎えに行くと、「高校生は手をつながないよ」という先生の言葉掛けを聞く。

できるだけ同性が迎えに行くようにはしているが、そうもいかないことがある。

中学部から高等部へ上がる時などタイミングで共通した配慮点があれば教えて欲しい。

→小1～3では女性教員が男子児童の排せつ指導・介助に入ることもある。

小4以上からは、同性介助でトイレ指導を行っている。

危険回避が難しい子には安全のため手をつなぐこともあるが、異性への距離感については、高等部では職業科、家庭科（家庭生活）の授業の中で人との距離感を教えている。

過去のケースで、手を伸ばして触れない距離で話そう、など分かりやすいマニュアルを作って指導したこともある。性教育については何をどう教えるかについて個別性が高いので、一斉での指導は行わず、個別で対応することが多い。

●担当主幹より 都立立川学園の送迎について

保護者向けの説明会より、次年度の開校に向けて、デイサービスの送迎車の乗り入れについて全部の事業所は入ることができない。コインパーキングの利用をすすめるかもしれない。医ケア対象の保護者や緊急時の送迎時のみ、敷地内への乗り入れを許可する方向になるかもしれない。

○現在小1利用者送迎では、事業所から一番近いSB停で下車してお迎えしたり、曜日を限定して

乗り入れしたりしている。

○現在 週3回敷地内の駐車場を借りている。今年度の利用可能である通知がギリギリだった。

早めに教えて頂けると助かる。

→早めに周知できるよう、立川学園へお願いしていく。